

序章……………3

第一部 中世大坂の歴史環境と都市

第一章 中世大坂の道……………35

一 古代の道

二 上町台地縁辺部の道

三 上町台地上の道

四 「大阪」の地名について

第二章 『日本一鑑』所収「滄海津鏡」の基礎的検討——十六世紀大阪湾周辺の地形と港湾都市……………68

一 「滄海津鏡」と関連する「万里長歌」「天使紀程」の記述

二 「滄海津鏡」の描写内容の検討

三 「滄海津鏡」の成立と鄭舜功

第三章 渡辺の都市構造……………99

一 難波津から渡辺津へ

二 渡辺党と渡辺

三 渡辺の歴史環境と空間構造

第四章 中世上町台地の宗教的様相——四天王寺を中心に……………127

一 四天王寺の立地

二 四天王寺の信仰

三 上町台地の諸信仰・諸寺と四天王寺

第五章 摂津国平野の成立と変容……………151

一 平野の概要

二 発掘調査からみた空間構造

三 文献史料からみた社会構造

第二部 寺内町の成立と展開

第一章 真宗寺内町の構造と展開——山科寺内町を軸に……………175

一 寺内町とは

- 二 「寺内」の空間構造
- 三 仏法領と「寺内」
- 四 本願寺の経済構造
- 五 吉崎と山科
- 六 大坂と山科

第二章 蓮如の大坂進出の前提——浄照坊の動向を中心に……………200

- 一 「浄照坊来歴」にみる開創伝承
- 二 法円の大坂進出
- 三 二幅の法円画像
- 四 河内から摂津・和泉へ——本願寺教線の展開と法円の大坂進出

第三章 大坂寺内の空間構造——古地形と町の観点から……………234

- 一 先行研究の到達点
- 二 検討を要する課題
- 三 大坂寺内の「町」
- 四 大坂寺内の空間構造復元

第四章 摂河泉における戦国期本願寺の地域編成……………275

- 一 本末関係による結集
- 二 直参関係による結集
- 三 御坊の動向とそれへの結集
- 四 定専坊にみる本願寺への結集

第五章 中近世移行期における在地寺内町の動向——摂河泉を中心に……………318

- 一 織田政権期の寺内町
- 二 豊臣政権期の寺内町
- 三 徳川政権期の寺内町
- 四 中・近世寺内町の構造

第三部 豊臣大坂城下町の成立と展開

第一章 豊臣大坂城下町の建設——初期を中心に……………343

- 一 秀吉の大坂城下町建設構想
- 二 城下町建設の実態
- 三 大坂城下町の構造
- 四 住民の動向

第二章	文献史料からみた豊臣大坂城の空間構造……………	376
一	これまでの空間構造研究の成果と課題	
二	惣構について	
三	第四期工事と三ノ丸について	
四	豊臣大坂城の縄張り認識	
第三章	文献史料からみた豊臣前期大坂城の武家屋敷・武家地……………	404
一	武家屋敷・武家地にかかわる先行研究	
二	天正十一～十三年(第一期…本丸普請期)の動向	
三	天正十四～十六年(第二期…二ノ丸普請期)の動向	
四	文禄三～五年頃(第三期…惣構普請期)の動向	
第四章	豊臣期大坂城下町の寺町考——城南寺町を中心に……………	446
一	先行研究にみる寺町	
二	寺町の成立と構造	
三	信仰面からみた寺町——真宗寺院をめぐって	
四	秀吉関連の城下町と寺町	

第五章 大坂の陣後の町の復興と玉造地区の武家地転換——高津屋史料の紹介をかねて……………487

- 一 「乍恐御願奉申上候」の翻刻と概要
- 二 高津屋吉右衛門家に関する史料
- 三 大坂の陣からの復興
- 四 徳川期における武家地の拡大

補論1 「丁目」史料からみた豊臣大坂城下町の空間構造……………505

- 一 「六丁目」丸碗
- 二 「道正谷七丁目」木簡
- 三 「八丁目」表記

補論2 「石山」呼称の再検討——豊臣大坂城評価の観点から……………516

- 一 「石山」呼称の再検討
- 二 豊臣大坂城を「石山」と呼ぶ史料
- 三 豊臣大坂城を「石山」と称する理由

結論と展望……………533

もくじ

あとがき  
挿図出典一覧  
索引

## 序 章

### はじめに

本書は「戦国・織豊期大坂の都市史的研究」と題し、中世、とくに十六世紀から十七世紀前半にかけて、大坂<sup>(1)</sup>が都市としてどのような構造と特質を有し、どのように変遷を遂げていったのかを実証的に提示し、そのうえでわが国の都市史のなかにおける大坂の意義を明らかにすることを課題とする。

現在、わが国において有数の大都市となった大阪は、原始古代以来当地に住まった人びとの営為の積み重ねの上に成り立っている。一方、その都市としての淵源を探ってみると、直接的には徳川期にそれを求めるのが長らく通説的な理解となっていた。徳川期の大阪は江戸に次ぐ第二の人口規模を誇る都市であり、町人の町・経済の町という現在でも大阪を語る際に持ち出されるイメージと一定の事実は、主としてこの徳川期の大阪の所産である。

しかし、実際には、その淵源は確実に豊臣期の大阪までさかのぼる。大坂には羽柴(豊臣)秀吉が天正十一年(一五八三)に建設を開始した大坂城と大坂城下町<sup>(2)</sup>があった。天下一統をもくろむ豊臣秀吉は天正十一年、清洲会

議によって政治の主導権を握るとまもなく自らの本拠を大坂に定め、大坂城下町を営んだ。その意味で大坂城下町は大坂の歴史にとってのみならず、近世という時代の幕開けを象徴する存在であった。それゆえに大坂城下町の研究は、日本史全体の課題として認識される必要があるといえよう。

ただ、そうした豊臣大坂城下町の重要性を認めるにしても、この城下町は前代に何もなくあった場所に突然姿を現したわけではない。古代以来、難波宮こそ廃絶したが、古代創建の寺院が性格を変えながらも中世にかけて存続し、また中世の王権や武家政権もその影響力を行使すべく当地に介入した。そうした歴史的・社会的背景のもとに、当地では性格を異にする中世都市の存立・盛衰がみられたのであり、それら都市が醸成したものを吸収あるいは取捨選択し、さらに新たな要素を加えることで秀吉は大坂城下町を実現したのであった。

そして、当地での都市形成の背景として、大阪湾に臨むという好立地があったことも忘れることはできない。京都・奈良を含む内陸部と西日本・アジアを結ぶ海の玄関口として、大坂は時代を超えて交通・流通の要衝として機能したのである。大坂をめぐる豊かな内在的・外在的諸条件が大坂に先進的な都市を育んだのであった。

本書はこうした大坂の都市について、大坂の中世都市・本願寺寺内町・豊臣大坂城下町という大きな三つのくりを設け、それぞれに個別課題の検討をおこなうとともに、中世から近世初めにかけての都市展開の実態を明らかにしてゆく。

なお、本書は原則的に文献史学の立場に立った研究方法を採るが、考古学の発掘成果や歴史地理学・建築史学の成果も積極的に取り入れている。戦国・豊臣期の大阪について物語る文献史料は必ずしも多くないことから、とりわけ膨大な件数の発掘調査データは、この時代の歴史復元にはもはや欠かすことのできないものとなっていることに鑑みてのことである。

## 一 中世都市とその近世都市への移行をどうとらえるか

最初に、都市史における大坂の位置づけを考える視角を得るため、これまで都市史研究のなかで中世都市が、そして中世都市から近世都市への移行がどのようにとらえられてきたのかをふりかえっておきたい。

都市研究の泰斗であった豊田武は、都市の展開を時系列に沿って古代都市、封建都市、近代都市と整理し、さらに初期封建都市(中世都市)の諸類型として、門前町・宿場町・港町・城下町を抽出した。これら類型が指摘されたことで、中世都市はさまざまな性格の都市核(寺社や武家勢力など)をもち、多様な存在形態をもつ可能性が示されることになった。この中世都市の多様性は、近世への都市展開、とりわけ在郷町(さいかうちまち)・門前町・宿場町・港町などを研究するにあたっては参照される必要があるが、近世都市の典型とされる城下町の形成過程を考えるにあたっても念頭に置かれるべきであろう。近世城下町の誕生には中世都市がおよぼした影響が具体的に問われなければならないからである。その意味で、豊田による多様な中世都市類型の抽出は近世への都市展開を考えうるうえでも重要な提起となっていよう。ただし、この分類はあくまで概念的分類として受け止めるべきである。ひとつの都市で複数の性格をもつ場合もあり、内実は単純ではない。その点で、類型はあくまで検討の道しるべと認識すべきであろう。

一九七〇年代後半、網野善彦が「無縁」「公界」「楽」という中世社会の原理に注目し、それにもとづいて広範に都市的場が存在したことを指摘した。<sup>(4)</sup> それをうけ、八〇年代後半から九〇年代前半にかけて中世都市研究は空前の盛り上がりを見せた。網野は社会における分業は早くより成立しており、非農業的生業に従事した人びとの活動の拠点として、遅くとも十三世紀後半以降、都市的な場が各地で顕著に発達したと述べている。それまで中世では都市の存在は限定的にとらえられていたが、中世社会のありかたに由来する都市の必然性に着目した網野

の発言は注目されるものであり、その後、各地での研究事例が相次いだのであった。

そうしたなかで、小島道裕は網野理論を援用し、戦国城下町が大名の主従制にもとづく城下凝集域(惣構内)と公界である周縁市町(惣構外)の二元的構造を有し、その克服によって近世城下町が成立しえたとの見解を発表した。<sup>(5)</sup> それに対し、寺社社会をも含む多元性・分散性に中世都市の特徴をみる市村高男の指摘や、市町を公界とみることを疑問視し、城下町への統合の原理を「公」にみようとするとする仁木宏の指摘・批判が示された。<sup>(7)</sup>

以上のような動きは、中世都市の実態を詳細に明らかにする研究と、中世から近世への城下町展開に関する研究の活発化を呼び起こすこととなってゆく。<sup>(8)</sup>

一九八〇年代後半からは近世史・建築史による都市への注目が高まった。その牽引役の一人である吉田伸之は都市を分業の所産としてとらえ、その過程で誕生した「町」を重視し、分析を進めた。そのうえで中近世都市に共通する都市性の抽出と城下町の類型・展開序列を示し、身分制と結びつけた城下町の分節構造論を提起したのであった。<sup>(9)</sup>

吉田の所説は、近世都市(城下町)の特質を社会構造(とくに「町」と結びつけて論じ、その前提となる中世末の都市との関連性についても読み解こうとしており、中世都市の分析作業にも重要な示唆を与えるものとなっている。ただし、吉田の関心の所在が近世都市(城下町)にあるがゆえに、中世都市への関心はその要素の淵源を求める対象に絞られているように見受けられる。吉田が前近代の都市(伝統都市)としての類型を都城と城下町に限っているのは、<sup>(10)</sup> それとは無縁ではなからう。また、近世都市の分節構造として提示されている町人地・武家地・寺社地・足軽町の系譜については、戦国期・織田期・豊臣期の都市(城下町)研究の深化を踏まえた跡づけ作業を進めていく必要がある。

建築史の成果としては、玉井哲雄の研究をとりあげたい。玉井は近世都市空間の特質を論じたなかで、三都に

おいては、中世都市の住人が関与してできあがった長方形街区・短冊型地割・両側町という町割手法が取り込まれた一方、中世都市の空間そのものは近世へ持ちこまれることなく解体・再編成され、統一権力による武家地・寺社地・町人地という身分制にもなう居住区分が施行されたと指摘した。<sup>(11)</sup> こうした街区構造や都市プランへの注目は建築史学の特長であり、それゆえその直接の淵源を求めて中世都市の空間構造へ関心が向けられるのは必然といえよう。都市空間は当該都市の社会状況を反映したものであることから、景観・建造物を含め研究を深めている建築史学の成果に学ぶべき点が多い。考古学についても、詳細は省くが、発掘成果から復元される都市プランや都市生活の実相面で参考にすべき成果は少なくない。<sup>(12)</sup>

以上のような研究動向をうけ、現在、中世都市研究をリードしているのが仁木宏である。仁木は中世史研究の立場から、中世社会のありかたを前提に展開した多様な都市・都市的場に精力的にアプローチしている。<sup>(13)</sup> たとえば「山の寺」はその象徴的なテーマといえよう。仁木は中世都市の固有性と特質、およびその達成が近世都市へと継承される側面を重視する点に研究視角上の大きな特徴をもつが、個別都市研究が進展するにしたがって、その発展段階の整理および理論立てが難しくなっている感がある。中世都市研究全体の課題として認識し、検討を深めなければならないだろう。

ところで、中世都市を考える際に避けて通れないものに宗教との関連性がある。さきの豊田武の類型に戻るまでもなく、中世都市と宗教は密な関係にあるといつてよい。網野は都市を「無縁」「公界」「楽」の空間とみたが、さらに都市を神仏が支配していた空間とし、そこで繰り広げられる商業・金融活動、およびそこで暮らす人びとの救済という側面で宗教は都市と不可分な関係にあったとの論を展開させている。<sup>(14)</sup>

伊藤毅も、吉田伸之が都城・城下町だけを類型とした前近代都市のなかに中世都市を再定置する作業をおこな  
い、宗教都市と交易都市を中世都市の類型として提起した。<sup>(15)</sup> さらに玉井哲雄も中世都市の多くが宗教施設(寺院)

を核としていたとし、中世都市を宗教都市と特徴づけることを提起している。<sup>(16)</sup> 政治権力が都市形成に際して中心的役割を果たしたというのが古代・近世の特質だったとすれば、中世では諸権門や共同体の存在が主導性をもつ事例が少なくなかった。そうした状況を背景に生まれた都市は、先の豊田の指摘のように細分化が可能であるが、そこから共通項を括り出そうとすると、宗教が掲げられるのは妥当と考えられる。

ではなぜ、寺社は都市核となりえたのか。そこで宗教が果たした役割は具体的に何だったのか。実のところ、その点についてこれまで十分な検討がおこなわれてきたかといえば、そうではない。先の網野善彦の指摘も中世社会の一面を照射した点で意義深いものであるが、問題提起にとどまっている。中世社会における宗教の役割に関する研究成果を参照しながら、宗教と都市のかかわりを具体的に検討することが求められるといえよう。<sup>(17)</sup>

では、以上のふりかえりを念頭に、古代末(平安)から豊臣大坂城下町にいたる大坂の都市研究史とそれに関連する主要な先行研究を、全般的な研究と個別都市研究に分けて確認し、これまでの成果と具体的な課題の抽出をおこなう。

## 二 大坂の都市史研究の歩み——成果と課題——

### (1) 全般的な研究

大坂では古代に置かれた難波宮が延暦三年(七八四)に停廃された。そしてその翌年には三国川が開削されたため、大坂を経由せずして京都と瀬戸内海が結ばれたことから、大坂は衰退の道を歩んだとの見方が長らく定説の位置を占めていた。さらに、中世後期の地域史研究は通常守護大名・戦国大名を軸におこなわれることが多いのに対し、大坂のように地域に根差し卓越した大名がいらないところでは地域全体を捉える軸が作りにくかったらみもある。そのため、中世大坂の研究は全般的に低調な時代が続いた。

## あとがき

本書は著者が大阪市立大学に提出した博士論文「戦国・織豊期大坂の都市史的研究」をまとめたものである。

定年退職まで残りわずかとなった年齢で学位を得、続けて本書を編むことができたのはひとえに歴史の道を志して以来、お世話になったすべての皆さまのおかげである。まずは衷心より御礼を申し上げます。そのうえで最後に自らの歩みを振り返りつつ、本書にいたる著者の関心の経過を述べてあげたい。

思い起こせば故郷岩手県で高校三年生となり進路を考えていた際、クラスの副担任であった中村三千男先生から日本史(古代史)を勉強したいのであれば関西が良いと薦められ、それまで東京以西に足を踏み入れたことのなかった人間が大阪市立大学へ入学し、関西での生活がはじまった。そしてその年は中村先生の大学時代の同級生であり、筆者が在学中に指導を仰ぐことになった榮原永遠男先生が大阪市立大学に赴任してこられた年でもあった。偶然とはいえ驚いたことをよく覚えている。榮原先生は現在、著者の職場である大阪歴史博物館の館長を務められており、博士論文の執筆についても早くから激励をいただいていた。学生時代よりさまざまな場面でお世話になり続けている榮原先生には感謝の申し上げようもない。

大学院の前期博士課程(修士課程)を途中退学し、現在の職場の前身大阪市立博物館に学芸員として就職したのは一九八六年十一月のことであった。学芸員の道をご紹介いただいたのは故大月明先生で

あった。古代・中世史担当の学芸員として着任した現場ではあったが、実際に目の前を行き交い展示で扱うのは摂津・河内・和泉地域ゆかりの、もっぱら中世後期から近世にかけての歴史史料であり、近代以降の史料に触れることも珍しくなかった。それは地域博物館という現場の宿命であるが、それらの史料に着想を得た展覧会を担当するうちに自らの関心も大阪の中世・近世初期が主となっていった。

とりわけ戦国期への関心を強くもつたのは本願寺の歴史に触れたことがきっかけだった。前身職場が大坂本願寺の故地だった大阪城本丸内にあったこと、しかしながらその大坂本願寺の遺構は地中に埋もれその実態が杳として知られていなかったこと、その一方で著名な真宗寺内町は大阪周辺に多くかつ真宗寺院自体も大阪は少なくなかったことから、中々近世の大阪の歴史を分析する切り口のひとつとして本願寺教団は有効なのではないかと考えたのであった。その検討の成果は職場で開催した特別展『大阪の町と本願寺』（一九九六年）として結実し、さらに本書第二部所収の諸論文が生まれ、仁木宏氏との共編『寺内町の研究』全三巻（法蔵館、一九九八年）の刊行にもつながることとなった。こうした過程において、門外漢だった真宗史については上場顕雄先生や吉井克信氏より多くのご指導・ご教示を頂戴するとともに、寺内町研究会や大阪真宗史研究会での議論は貴重な勉強の機会となった。寺内町の研究に取り組んだことが契機となり、都市史へと関心が広がっていった。折から学界でも都市史研究が盛んとなっており、大坂を都市史の側面からどう位置づけることができるのかを意識しだした。その際、強い学問的刺激を受ける場となったのが、現在も活動を続けている一六一七会である。仁木宏氏・松尾信裕氏・山上雅弘氏とともに発起人を務め、二〇〇〇年に活動を開始したこの研究会は中近世移行期の都市的場をさまざまな学問分野から多角的に検討する作業をおこなってきた。

この研究会で各地を訪れ、文献史学はもとより考古学・歴史地理学・建築史学・城郭史という多彩な研究者との交流から得られた学恩は極めて大きいものがある。

著者自身は大坂周辺以外の都市を具体的に分析する作業はこれまでほとんどできてこなかったが、大坂の特質を考えるうえで比較すべき都市の知識はまずこの研究会で得られることが多かった。この研究会に参画できたことは何よりの財産だと考えている。平野や四天王寺、寺内町の貝塚、そして大坂城下町の天満についてはこの研究会で報告したことがあり、その内容も含めて成稿した論文が本書の第一部・第三部におさめられている。

もうひとつ都市史への関心にかかわって大きな刺激を受けている場として、職場をあげたい。職場にはさまざまな分野の学芸員が配置されているが、とりわけ考古学・建築史学を専門とする同僚とのあいだで日々それぞれの研究方法や新しい発掘・研究成果について情報交換ができるのはとてもありがたいと思っている。特に都市の空間構造についてこうした環境から多くを学ぶことができたのは幸いであった。

なお職場に関して付言すれば、当然といえば当然のことであるが、大坂研究の素材を身近にもったこともプラスとなった。特に資料担当として普段から親しんでいる絵図資料については、元来自らが地図好きであることとあいまってその積極的活用を心がけており、それらをもとにした町歩きや古道歩きなどのフィールドワークは都市史研究にも大いに役立っている。

第三部に収めている豊臣期を中心とした大坂城下町に関連する研究は自分のなかではもっとも新しい時期にはじめたものである。もっとも、中世(戦国期)へ向けられていた関心が、続く時代である織豊期へ及んでいくのは当然のことかもしれない。ただし、豊臣期の大阪といえば大坂城への関心の高



在である。その母校に都市大阪を対象にした博士論文を提出できたことは大きな喜びであり、主査を務めていただいた仁木宏氏をはじめ日本史教室の各先生から頂戴した厳しくかつ丁寧な指導には厚く感謝申し上げますとともに、ご指摘を充分に反映できなかったことにお詫び申し上げます次第である。

なお、本書の出版にあたっては平成三十年度科学研究費助成事業（JSPS科研費18HP5086）の助成を頂戴した。また思文閣出版には大部の原稿となったにもかかわらず本書の刊行を引き受けてくださり、編集部の上野泰保氏は原稿の不十分な点を丁寧に指摘いただきなど、たいへんお世話になった。

終わりに私事ではあるが、遠く大阪の地への進学を認めてくれた盛岡の両親と見守ってくれた姉、そして日々マイペースでの生活を支えてくれている妻と二人の子どもたちに感謝の意を捧げたい。

二〇一九年二月一日

堺の自宅にて

大澤研一

八幡 73  
 祐光寺 288  
 横枕 224  
 横町 242, 246  
 吉崎 23, 142, 143, 175, 176, 186, 187, 189  
 ~192, 212, 225, 285, 291

## ら行

竜安寺 115  
 両側町 7, 15, 159, 456, 481, 544  
 楼の岸 50, 51, 266, 267, 539

## わ行

若江 46, 285  
 渡辺 13, 14, 21, 22, 51, 76, 99, 100, 104,  
 105, 110, 111, 115, 116, 118, 121, 122,  
 137, 138, 343, 351, 356, 359~361, 466,  
 470, 481, 506, 534~537, 542  
 渡辺王子 55, 115, 116, 120, 128, 139  
 渡辺川 73, 74, 76  
 渡部寺 117  
 渡辺惣官職 105, 106, 121  
 渡辺党 9, 13, 14, 22, 99, 106, 117~119,  
 121, 534, 535  
 渡辺津 13, 18, 36, 39~41, 44~46, 50, 55,  
 77, 87, 89, 99, 100, 110, 111, 115~117,  
 120, 128, 138, 139, 535  
 渡辺橋 102, 112, 113, 115, 119, 120  
 渡辺別所 117, 128, 137, 138, 147  
 渡辺屋敷 119, 120

浜路 39~41, 44~46, 50, 53~55, 100, 103,  
 109, 111, 112, 115~118, 120, 470, 534  
 東伊勢町 500  
 東横堀 40, 109, 361, 382, 385, 508, 510, 542  
 姫路 26, 365, 478  
 姫路城 365, 463, 478  
 檜物屋町 242, 246, 252, 254, 258, 261  
 兵庫 73, 77~79, 83, 88, 113  
 枚方 326  
 枚方坊 289, 292, 294, 295, 300  
 平野 9, 15~17, 21, 22, 151, 152, 154~  
 159, 161~163, 165, 167~169, 279, 326,  
 328, 343, 348~351, 366, 433, 463, 464,  
 466, 536, 537, 543  
 平野川 152  
 平野郷町 151, 152, 158, 167  
 平野橋 361  
 平野橋筋 361  
 平野町 9, 16~18, 36, 50, 346~350, 356,  
 358, 359, 362, 366, 457, 463, 464, 468,  
 470, 471, 479, 481, 482, 506, 514, 542~  
 544, 546, 547  
 平野町一丁目 510  
 深井 145  
 深江笠座 146  
 福島 100, 111, 118, 228, 282, 292  
 深日 85  
 武家地 6, 7, 25, 26, 345, 357, 404~406,  
 408, 409, 422, 433~435, 475, 487, 494,  
 543, 545, 550  
 武家屋敷 364, 368, 404~406, 408, 409,  
 419, 421, 422, 425, 428, 431, 433~435,  
 545  
 伏見 11, 350, 387, 404, 407, 432, 435  
 伏見坂町 495  
 伏見城 367, 382, 387, 406~408, 429, 433,  
 435, 499, 542, 543  
 仏光寺 223, 224, 278~281, 284, 301, 302  
 仏照寺 282, 285  
 仏法領 23, 181~183, 538  
 古市 285  
 法安寺 255~258

宝光寺 285  
 本遇寺 228, 282, 292  
 本町 546  
 本町通 359, 509

### ま行

町奉行 433  
 松江町 452  
 松原 54  
 松屋町筋 37, 38, 41, 44, 45, 55, 103, 109~111  
 御影川 80  
 三木 364, 365, 456, 463  
 三国川 8, 103  
 水間寺 145  
 溝杭 278, 282  
 三津寺 17, 103  
 三津寺村 547  
 湊川 77, 79  
 南中島 75  
 南町・南町屋 242~244, 247~249, 267  
 宮の前町 118  
 妙光寺 365, 456, 462, 463, 479  
 妙楽寺 283  
 迎講 116, 133, 137, 138  
 武庫川 78, 79, 88  
 室津 73  
 面的街区 15  
 本鞆町 360~362  
 森 54, 255, 257, 258  
 守口 47, 73, 81, 82, 152

### や行

八尾 152, 156, 225, 285, 331, 335, 539  
 八尾街道 152  
 山崎 73  
 山科寺内(寺内町) 23, 175, 186, 188, 189,  
 191, 193, 241, 244, 248, 249, 268  
 山科本願寺 141, 143, 184, 185, 195, 283, 538  
 大和(奈良)街道 152  
 大和川 49, 54, 76, 224, 254, 255, 263, 382,  
 389, 533

天神橋筋 37, 38, 118, 451  
 天王寺 328, 343, 346, 349, 350, 353, 354,  
 356, 483, 506, 526, 541  
 天王寺寺町 454  
 天満 9, 17, 18, 20, 21, 111, 118, 355, 358,  
 368, 405, 419, 432, 451, 452, 466, 487,  
 506, 541, 543, 545, 548  
 天満寺内 (寺内町)  
 19, 240, 241, 324, 325, 331, 454  
 天満寺町 358, 446, 451, 452, 454, 457, 461,  
 471, 479, 480, 482  
 天満天神社 103, 107, 108, 111, 117, 118,  
 121, 122, 535  
 天満西寺町 546  
 天満橋 40, 52, 102, 354, 355  
 天満本願寺 454, 516, 518, 519  
 堂島川 548  
 道頓堀 547  
 トガ川 80  
 徳川大坂城下町 27, 533, 540, 545, 546  
 土佐堀川 548  
 道修町 362, 363, 506  
 道修町七丁目 510  
 友ヶ島 72, 73, 84, 87, 88  
 舳淵 278  
 豊臣大坂城下町 4, 8, 9, 11, 12, 14, 16~  
 18, 21, 22, 25~27, 237, 357, 358, 446,  
 447, 450, 474, 481, 482, 505, 513, 514,  
 540~545, 550  
 富田 196, 321, 328, 335, 336  
 富田林 196, 321, 322, 328, 333, 334  
 富田坊 289~292, 294, 300

## な行

中島 75, 76, 88, 111, 145, 241, 354, 355,  
 466, 506, 541  
 中高野街道 152  
 中津川 73~75  
 中之島 405, 548  
 長浜 26, 476, 478, 514, 550  
 長堀 389  
 長堀川 549

長堀十丁目南輪 549  
 長堀白髪町 549  
 中丁 242  
 中通 54  
 長柄 37, 100, 111, 419, 548  
 長柄橋 76  
 長柄町 362  
 流町 158, 167  
 名護屋城 430, 432  
 難波行宮 102  
 難波小郡 102  
 難波宮  
 4, 8, 15, 21, 37, 99~101, 127, 192, 534  
 難波離宮 102  
 鯉江川 356  
 西浦 285  
 西寺町 454, 456, 546  
 西宮 73, 77, 79, 80  
 西町 242, 246~248, 262, 267  
 西横堀 41  
 日本一鼻之道場 250~252, 258  
 沼島 72, 73, 87, 88  
 猫間川 382, 500  
 寝屋川 263  
 農人橋筋 546  
 農人橋通 501  
 野江 82  
 野田 285  
 野田橋 356  
 野堂町 158, 162, 165, 167, 349

## は行

八軒家浜 36, 40, 99  
 八里 285  
 八丁目寺町 454, 462  
 八丁目中寺町  
 454, 456, 461, 462, 466, 468, 479  
 八丁目東寺町 454, 456, 466~468, 470, 479  
 放出辻 224  
 浜市 14  
 浜街道 87  
 浜ノ町 362

浄国寺 456  
 浄照坊 201, 202, 211~222, 227, 228, 285  
 上手堂 117  
 定専坊 249, 281, 284, 285, 288, 289, 301~305  
 招提 327  
 浄土堂 50, 111, 112, 116, 117, 120, 138, 535  
 城南寺町 26, 358, 456, 457, 466, 471, 479  
 ~482, 512  
 白子町 548  
 新開 146, 224  
 真光寺 280, 284, 285, 300  
 心齋橋筋 510  
 真宗寺 282, 285, 295  
 信証院 295  
 新屋敷 242, 246, 247, 252, 254~256, 258,  
 261, 539  
 親鸞 290  
 吹田 73, 77~80  
 吹田川 74, 88  
 鈴木町 501  
 住吉 39, 52, 53, 152, 346  
 住吉堺街道 152  
 住吉社 40, 41, 44~46, 53, 85, 114, 121, 131,  
 138, 535  
 清光院 45  
 摂津国衙 100, 102, 104, 107, 108, 112, 113, 121  
 摂津職 102  
 施福寺 145  
 善教寺 285, 295  
 栴檀木橋筋 510  
 専念寺 451, 452  
 船場 9, 17, 18, 40, 360~363, 419, 487, 506,  
 510, 513, 546, 547  
 惣構 6, 26, 158, 344, 345, 376~378, 380  
 ~383, 385, 386, 390, 393~397, 400,  
 408, 415, 429, 457, 466, 468, 470, 471,  
 495, 512, 525, 541, 542, 545  
 惣尻切町 510  
 崇禅寺 75  
 曾根崎村 118

た行

大ヶ塚 326, 327, 333  
 大地 285  
 大名屋敷 26, 344, 357, 364, 368, 388~390,  
 394~396, 404~408, 415, 419, 421~  
 423, 426, 427, 429~432, 434, 435, 543,  
 547, 548  
 太融寺 103  
 内裏 506  
 高田 331  
 武久 105  
 嶽山 81  
 竹濶 279  
 多田院 145  
 谷町筋 266, 501, 508  
 谷町二丁目 359  
 谷町八丁目寺町 348, 421, 454, 456, 458,  
 461~463, 468, 479  
 玉造 54, 405, 419, 487, 488, 492, 494~496,  
 500, 545  
 田原本 331  
 丹下 285  
 短冊型地割 7, 475  
 淡輪 73, 83~87, 92  
 町 6, 12, 16, 17, 19, 20, 22, 24, 178, 258  
 ~263, 349, 370, 536, 539, 540, 544, 547  
 町人地 6, 7, 357~359, 422, 426, 428, 543,  
 544, 546  
 釣鐘町 506  
 泥堂町 158, 167, 349  
 出口 228, 282, 283  
 出口坊 289, 292, 294, 295, 300  
 豊島 278  
 豊島郡 102  
 豊島庭座 146  
 寺町 17, 19, 25, 26, 159, 348, 357, 358, 447  
 ~451, 454, 461, 464, 466~468, 470,  
 472, 474, 475, 477, 478, 480~482, 543,  
 544, 546, 550  
 寺山屋敷 499  
 天神橋 40, 101~103

九品寺 451, 452  
 杭全庄 154~157, 165, 169  
 杭全神社 155  
 熊野街道 13, 36, 45, 46, 53, 87, 100, 128, 138  
 鞍作(蔵作) 224, 279, 285  
 源光寺 285  
 顕証寺 332, 333  
 光永寺 156, 288  
 興正寺 280  
 光善寺 291  
 高津 40  
 郡戸王子 36, 55, 139  
 光徳寺 278, 284, 288, 289, 303, 359  
 光明院 40  
 高麗橋 50  
 高麗橋通 359, 360, 362, 506  
 光蓮寺 285  
 鴻臚館 102  
 国衙 103, 114, 120  
 国府大渡 102, 104, 113  
 国分村 46  
 石町 351, 359  
 小島 73, 84, 86, 92  
 勝間 44  
 木村 46  
 木村布座 146  
 粉浜 44  
 小牧 26, 343, 475, 478, 481, 514, 549, 550  
 昆陽 79, 80  
 小山 283, 285  
 誉田 285  
  
 さ行  
 雑賀坊 299~301  
 西光寺 294, 295  
 在郷町 5, 23, 25, 151, 169  
 西証寺 292  
 堺 9, 15, 17, 40, 55, 73, 82, 87, 146, 151,  
 152, 157, 158, 161, 194, 196, 224, 225,  
 279, 280, 282, 285, 287, 325, 326, 336,  
 343, 345~347, 352~354, 356, 369, 414,

415, 420, 526, 536, 541  
 堺筋 45, 50, 109, 111  
 堺坊(御坊) 276, 284, 295, 296, 299, 300  
 坂口王子 36, 55, 139  
 鷺島庄 146  
 佐野 87  
 侍町 394, 395, 421, 434  
 算用曲輪 390  
 山陽道 80, 82, 88  
 算用場 496  
 慈恩寺 45, 52  
 慈願寺 211~215, 217~222, 224, 226, 227,  
 279, 283, 285, 289, 293, 294  
 鳴野 47, 49, 54, 82  
 志宜庄 255  
 地下町 118  
 慈光寺 285, 295  
 寺社地 6, 7, 357  
 下道 52, 87  
 七名家 164  
 四天王寺 9, 14, 15, 22, 36, 39~41, 44~  
 47, 49~53, 55, 82, 101, 102, 107, 128~  
 138, 141~147, 152, 347, 348, 353, 356,  
 358, 364, 369, 433, 466, 470, 534~537,  
 542, 543  
 寺内 192, 244  
 寺内之浦 251, 253, 256  
 信太 39  
 島之内 546  
 島町 18, 113, 351, 359, 363, 506  
 清水谷 245, 382  
 清水谷屋敷 499  
 清水町 242, 245, 247, 248, 262, 267  
 下鳥羽 73  
 下難波村 547  
 十三小路屋敷 499  
 夙川 80  
 聚楽第 11, 355, 356, 366~368, 406~408,  
 415, 423, 427, 433, 541  
 聚楽町 366, 367, 501  
 順興寺 295  
 盛光寺 285

大坂城代屋敷	499
大坂城二ノ丸	26, 51, 192, 240, 241, 244, 247, 248, 250, 252, 258, 344, 345, 357, 363~365, 367, 368, 376, 378~380, 382, 387~391, 393~397, 407, 408, 417~ 422, 427~429, 431, 433, 434, 525~528, 542, 543
大坂城本丸	26, 192, 238, 248, 252, 344, 345, 364, 365, 376, 380, 382, 389, 395~ 397, 407~409, 419, 420, 422, 428, 520, 525, 527, 528
大坂町中屋敷替え	9, 17, 542
大坂の陣	159, 161~163, 165, 169, 335, 359, 487, 494, 501, 545, 548
大坂坊(坊舎)	24, 50, 51, 56, 141~143, 147, 201, 223, 224, 228, 229, 243, 253, 284, 287~289, 296, 300, 303, 304, 520, 535
大坂本願寺	14, 23, 24, 27, 49, 51, 54, 56, 76, 82, 84, 101, 109, 122, 129, 141, 143, 147, 194, 195, 201, 234, 235, 238, 242, 246, 250, 257, 258, 266, 275, 285, 288~ 290, 294, 296, 298, 366, 466, 480, 516, 518, 530, 534, 535, 538, 539
大坂屋敷	547, 548
大沢橋	49, 255
大手口	389
大手通	421, 501, 506, 509, 544, 546
大伴	196, 334
大山崎	157
大輪田泊	77
大渡	45, 103~105, 113
大渡王子	115
岡山講	284, 297
岡山坊	297, 300, 301
御小人町	509, 546
小坂	50, 55, 73, 76, 77, 81, 87, 122
小坂王子	116
織田上野屋敷	380, 390
小橋寺町	454, 456, 468
小橋村	47
御祓筋	36

带状街区	481, 544
------	----------

か行

貝塚	87, 321, 327, 328, 330, 331, 335, 506
海塚坊	296, 298~301
嘉祥寺	283, 299
片腹町	356, 541
勝尾寺	145, 146
上鳥羽	73
上難波村	547
亀井	279
蒲生	82
空堀	385
唐物町	506
瓦町	361
神崎川	74, 77~80, 99
願泉寺	146
紀州街道	50, 87, 88, 111, 335
岸和田	87
北新町	500
北中島	75
北町	242, 246~253, 256, 258, 259, 261~ 263, 267
北町屋	242, 246, 247, 252~254, 256, 258, 261, 264, 539
吉右衛門肝煎地	493, 494
木津	41, 129, 130, 146, 285
木屋敷	116
久太郎町	546
久宝寺	24, 152, 213, 220, 221, 224, 279, 289, 292, 326~328, 330~335
久宝寺坊	289, 292~294, 300
久法(宝)寺町	546
京街道	49, 355, 356
教行寺	290
京都	11, 49, 73, 90, 91, 345, 346, 350, 355, 356, 367, 368, 406, 413, 426, 427, 432, 433, 446, 448~450, 454, 464, 466, 472, 480, 513, 535, 536, 543
窪津	39, 45, 55, 104, 105
窪津王子	115, 128, 139
久本寺	348, 458, 463, 464, 479

## 【事項】

あ行

藍屋町 361  
 青屋口 379, 391  
 青屋町 242, 261  
 赤坂町 361~363, 546  
 明石 73  
 芥川 73, 78, 79  
 足軽町 6, 421  
 芦屋川 80  
 飛鳥川 81  
 安曇寺 103  
 安土 434  
 阿倍野 53, 296  
 阿倍野王子 53, 139  
 阿弥陀寺 280, 285  
 有馬街道 80  
 淡路町 546  
 淡路町一丁目 361  
 安堂寺町 546  
 坐摩社 103, 108, 113~115, 119~122, 351,  
 360, 361, 534, 535, 542  
 生国魂社 103, 256~258, 352, 534, 542  
 生田川 80  
 生玉筋中寺町(北) 454, 456~458, 461,  
 462, 466~468, 470, 479  
 生玉筋中寺町(南) 454, 456  
 生玉寺町 454, 456  
 石川 81  
 石津川 83  
 和泉町一丁目 364  
 磯島 278  
 市町 158, 167  
 猪名川 78~80  
 今井 243, 321~323  
 今橋通 359, 360  
 今宮 41, 44, 50, 129, 130  
 上堺町 359, 501

上汐町筋 36, 37  
 上本町 359, 511  
 上町 9, 17, 18, 355, 358, 359, 362, 363,  
 367, 370, 421, 452, 466, 470, 482, 495,  
 496, 501, 502, 506, 508, 512, 513, 544~  
 546  
 上町筋 350, 390, 501, 511, 513  
 上町台地 12, 20~22, 36, 37, 39, 41, 44  
 ~47, 49~56, 101, 113, 120, 127, 129,  
 136~138, 143, 144, 146, 238, 241, 249,  
 254, 264, 266, 267, 343, 347, 350, 351,  
 356, 456, 481, 519, 533~535, 537, 539,  
 546  
 上道 52, 87  
 内安堂寺町通 36, 54, 457, 466, 468, 471, 481, 513  
 内鍛冶町 359  
 内平野町 495  
 鰻谷 546  
 恵光寺 284, 288  
 枝川 79, 88  
 江戸 11, 514  
 江戸堀 549  
 榎並 146, 285, 303  
 大井 285  
 大石川 80  
 大枝 278  
 大川 13, 14, 21, 50, 51, 55, 74, 100~102,  
 104, 107, 109, 111, 112, 116~118, 120,  
 127, 382, 385, 454, 470, 506, 534, 541,  
 543, 548  
 大坂御坊 51, 192, 257, 268, 275, 288, 290,  
 302, 538  
 大坂寺内(寺内町) 10, 16, 17, 22~24, 35,  
 76, 122, 193, 194, 234~237, 239~244,  
 251, 258, 261~264, 267, 268, 461, 472,  
 539~542  
 大坂城 26, 51, 344~346  
 大坂城三ノ丸 26, 344, 345, 376~382, 386,  
 389, 391, 393~397, 400, 408, 429, 495,  
 525, 543  
 大坂城代 245

蜂須賀家政	430
蜂須賀正勝	414, 419
一柳市介	348
藤原宗忠	39
藤原頼長	39, 40
文室宮田麻呂	103
法円	24, 201, 211~227
法光	214, 215, 221, 222, 225~227, 283
保科弾正忠正貞	500
細井政成	417
細川晴元	195, 290, 295
細川政元	156, 192, 194

ま行

前田玄以	382, 411, 413, 418
前田利家	387, 430
増田長盛	418, 434
松井友閑	352, 353, 418~420, 431, 433, 526
松浦重政	413
松浦安太夫	297
松平忠明	487, 494, 496, 545
真鍋真入斎貞成	84, 85
万年長十郎	501
源伝	137
源綱	118
三宅国村	291
宮部継潤	431
妙覚	278
三好宗三	74
三善為康	132
三好長慶	106
毛利重政	426
毛利輝元	388, 390, 426, 427, 431, 433
毛利吉成	426

や行

安井九兵衛	547
山内一豊	548
山田清大夫	495
結城秀康	417
吉田兼見	366, 413, 428
吉益半笑	225

ら行

了源	278, 279
了真	283
蓮芸	290
蓮淳	285, 293
蓮如	24, 50, 51, 54~56, 141~143, 181, 186, 187, 190~192, 194, 200, 201, 211, 212, 215, 217~221, 223~229, 240, 241, 243, 244, 253, 258~262, 268, 275, 277, 280, 283, 285, 287, 290~292, 295, 300~302, 304, 519, 520, 534, 535, 538

わ行

渡辺翔	108
渡辺重	106
渡辺栄	108
渡辺氏	108
渡辺嗣	108
渡辺告	108
渡辺伝	105
渡辺照	106, 121
渡辺房	108
渡辺孫三郎	106
渡辺満	106
渡辺実	106

## さ行

西笑承兌	52, 53
坂上広野麻呂	155, 163
相良長每	430
相良長誠	430
佐々成政	424, 430
三条西公條	51
三条西実隆	40
慈春	212
実賢	275, 287, 295
実従	245, 295
実順	293
実真	293
実如	51, 184, 194, 218, 244, 280, 281, 284, 285, 287, 297, 298, 302, 538
島津	425
島津義久	425
島津義弘	425
下間光宗	290
下間頼広	291
緯如	283
順如	291
浄恵	288
浄顕	281, 302
正直屋樋井氏	77
乗順	284, 288
聖徳太子	128, 131, 134~136, 142, 143, 146
証如	192, 211, 244, 257, 260, 261, 281, 285, 293, 295, 296, 298, 299, 302
白河院	108
親鸞	129, 135, 136, 141~143, 213, 214, 275, 277, 282, 284, 287, 297
瑞溪周鳳	80
祐長宗弥	146
帥法印	430
存覚	223, 278, 279
存如	224, 228, 278, 302

## た行

平惟仲	103, 104
高山右近	417, 419

立花宗茂	425
重源	116, 128, 137, 138
長宗我部元親	424, 430
津軽為信	431, 432
津田宗及	426
津田宗凡	426
津田信澄	240, 540
筒井順慶	416, 419
津守国平	114
津守経国	114
鄭舜功	68, 69, 71, 83, 85, 86, 88~93
鉄牛	83
寺沢広高	431
道顕	282, 295
道祐	217
徳川家康	166, 327, 328, 330, 331, 334~ 336, 387, 417, 418, 431, 487
鳥羽院	133, 134
豊田定長	414
豊臣(羽柴)秀次	357, 426~429, 431~434
豊臣(羽柴)秀長	410, 426, 427
豊臣(羽柴)秀吉	3, 10~12, 25, 27, 77, 122, 165, 240, 323~328, 330, 343, 344, 346 ~348, 350~358, 365~368, 376, 404, 406~410, 412~420, 422~427, 429~ 431, 433~435, 446, 450, 456, 461, 463, 466, 470, 474, 476, 478, 479, 482, 487, 506, 518, 537, 539, 541~545, 548~550
豊臣秀頼	52, 362, 387, 406, 522

## な行

内藤信正	499
長岡(細川)忠興	389, 415, 421
長岡幽斎	415, 416
成安道頼	547
二条宴乗	54
丹羽長秀	240, 540

## は行

羽柴秀勝	410
畠山政長	156
畠山義就	156

# 索引

## 【人名】

### あ行

明智光秀	322
浅野長政	418
足利義満	46, 82
阿部備中守正次	499
飯具実孝	245
生駒親正	431, 433
石田正澄	430
石田三成	353, 418, 425, 433
出雲聖人	133, 137
一遍	135
稻葉重執	413, 434
今井宗久	424
宇喜多秀家	426, 427
栄春	211, 212, 227
叡尊	117
遠藤氏	108
遠藤家国	107
遠藤為景	107
遠藤為方	107
遠藤為依	107
遠藤信恒	107
遠藤頼方	107
遠藤依重	107
大谷吉継	426, 428, 434
大友宗麟	420, 526
織田信雄	411, 420
織田信孝	240
織田信長	10, 11, 14, 19, 23, 27, 84, 118, 127, 158, 165, 266, 267, 299, 321~324, 343, 366, 415, 434, 472, 475, 478, 482, 530, 539, 540

### か行

覚応	279
覚如	278, 280
片桐且元	391, 418
加藤清正	415
神屋宗湛	418, 521, 522
蒲生氏郷	431, 432
河原林越後守	426, 428
願証寺兼幸	244
桓武天皇	102
木沢長政	257
北野殿	46, 47
北政所	387
吉川広家	414, 415
木下吉隆	431
経豪	280, 281
教如	328, 330, 331, 334, 540
巧如	283
清原康重	114
空善	281
九条政基	76
黒田孝高	365, 414, 419, 426, 427, 434
顕誓	141, 142
顕如	142, 296, 299, 302, 303
後一条天皇	102, 112
小出秀政	431, 433
高津屋吉右衛門	488, 492~494, 496, 497, 501, 502, 545, 547
後柏原天皇	195
後三条院	131
後醍醐天皇	106
小寺休夢	426
後奈良天皇	195
小早川隆景	431
小早川秀包	414, 415
金地院崇伝	495

◆著者略歴◆

大澤 研一(おおさわ けんいち)

1962年 岩手県生まれ  
1981年 大阪市立大学文学部入学  
1986年 大阪市立大学文学研究科前期博士課程史学専攻中退、大阪市立博物館 学芸員  
2001年 大阪歴史博物館 企画広報係長  
2011年 大阪歴史博物館 企画広報課長  
2017年～現在 大阪歴史博物館 学芸課長  
博士(文学)  
日本中世史・大阪地域史専攻

主要編著書：〔共編著〕『寺内町の研究』全3巻(法藏館, 1998年), 〔共編著〕『岸和田古城から城下町へ 中世・近世の岸和田』(和泉書院, 2008年), 〔共編著〕『秀吉と大坂』(和泉書院, 2015年).

主要論文：「近世初期の都市大坂と真宗寺院——『大坂惣末寺衆由緒書』の分析を通して——」(『真宗教団の構造と地域社会』清文堂出版, 2005年), 〔共同執筆〕「真田丸について——『真田丸図』と構造の検討——」(『2016年NHK大河ドラマ特別展「真田丸」図録』NHK・NHKプロモーション, 2016年)ほか.

せんごく しよくほう き おおさか と し してきけんきゆう  
戦国・織豊期大坂の都市史的研究

2019(平成31)年2月28日発行

著者 大澤研一  
発行者 田中 大  
発行所 株式会社 思文閣出版  
〒605-0089 京都市東山区元町355  
電話 075-533-6860(代表)

装 幀 北尾崇 (HON DESIGN)  
印 刷 西濃印刷株式会社  
製 本

©K. Osawa 2019

ISBN978-4-7842-1963-6 C3021